

## 第6回函館市町会活性化検討会議 議事録

○開催日時：令和3年2月3日（水） 10：00～12：15

○開催場所：函館市役所8階 大会議室

○出席者

委員：大矢委員， 纒坂委員， 形部委員， 神田委員， 菊池委員， 酒井委員， 笹谷委員  
竹内委員， 常野委員， 永澤委員， 中山委員， 浜田委員， 若林委員

オブザーバー：函館市町会連合会 中村事務局長

函館市教育委員会学校教育部 菊池学校教育指導

函館市保健福祉部 金指地域福祉課長

函館市保健福祉部 小棚木地域包括ケア推進課長

事務局：市民部 横川次長， 米田市民・男女共同参画課長

小林主査， 奥ヶ谷主査， 久保澤主事， 播磨主事

.....

### 第6回函館市町会活性化検討会議 次第

1 開 会

2 議 事

「（仮称）町会活性化に向けた基本的な方向性（原案）」について

3 その他

4 閉会

..... 1 開 会 .....

（事務局 小林主査）

それでは、定刻となりましたので、ただいまから第6回函館市町会活性化検討会議を開催いたします。本日司会を務めさせていただきます事務局の小林です。よろしくお願いいたします。

あらためまして、本日の検討会議ですが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、出来る限り、密や接触を避けるために、リモートによる Web 会議での開催とさせていただいております。また、リモート通信の環境が整わなかった委員の皆さまには、市役所本庁舎の会場で参加していただいておりますので、どうぞ、よろしくお願いいたします。

まず初めに、この会議ですが、原則、公開により行っております。また、終了時刻を11時40分頃と予定しておりますので、議事の進行に、ご協力をよろしくお願いいたします。

本日の会議の出席数ですが、委員18人中13名の出席、オブザーバー4名の出席をご報告いたします。なお、リモートでの委員参加は8名、会場での参加は5名となっております

ので、よろしくお願いいたします。

次に、Web 会議での進行に関する留意点をお知らせいたします。

委員の皆さまからの発言についてですが、発言の際には、カメラに向かって挙手をしていただき、念のため、通常よりも緩やかなテンポで発言していただけるよう、ご協力をお願いいたします。

発言の際の機械操作についてですが、現在、会場以外の参加者は、マイク設定が音の入らないミュートとなっております。パソコンのスペースキーを押し続けると音声が出力されますので、発言の際には、ご自分のパソコンのスペースキーを長押ししながら、発言していただくようお願いいたします。

..... 資料確認 .....

それでは、はじめに資料の確認をさせていただきます。皆様には、事前に資料をお配りしておりますが、お手元には、「第6回函館市町会活性化検討会議 次第」、「(仮称) 町会活性化に向けた基本的な方向性(原案)の骨子概要」、「出席者名簿」が用意されていると思いますが、お手元に資料は、お揃いでしょうか。

不足等がなければ、ここからの進行は菊池座長にお願いいたします。

..... 2 議 事 .....

(菊池座長)

おはようございます。今日もよろしくお願いいたします。本日は最後の検討会議になりますので、みなさまからの活発なご意見をいただければと思います。

それでは、早速ですが「次第の2 議事」に入りたいと思います。

このたび、市が作成した「(仮称) 町会活性化に向けた基本的な方向性(原案)」に関しまして、事務局から説明をお願いします。

(事務局 米田市民・男女共同参画課長)

それでは、お手元の「(仮称) 町会活性化に向けた基本的な方向性(原案)」骨子概要をご覧ください。

1 策定の趣旨です。

近年、居住形態やライフスタイルの変化などにより、町会活動に参加する住民が減少し、住民相互のつながりが希薄化するなど、町会の活力の低下が懸念されていることから、町会はもとより、市と町会連合会がともに力を合わせ、町会の活性化を図るため、「町会活性化に向けた基本的な方向性」を策定するものです。

次に、2 町会の現状と課題です。

現在、市内には178の町会があり、町会を構成員とした町会連合会が組織されています。

町会加入率は、15年前の平成17年度に92,928世帯・68.8%であったものが、令和2年度には72,993世帯・52.7%まで減少しています。

町会は、回覧板などによる情報の周知、子どもや高齢者を対象とした住民福祉活動、街路灯の維持管理など様々な活動を行い、住民同士の顔の見える関係を築いていますが、特に、若い世代の多くは町会活動に関わることが少なく、右下の表にありますとおり、町会が抱える主な課題としてあげられている、会員の減少や会員の高齢化、役員・班長のなり手不足などによって担い手が固定化し、負担が増大している状況にあり、地域課題が多様化・複雑化するなか、町会が単独で対応することが困難な場合も多くなってきています。

また、連携イメージ図のとおり、すでに、PTAやNPO、企業などと町会が、連携を図りながら行っている活動もありますが、本市においては、コミュニティ・スクールが導入されているほか、福祉拠点として、多機能型の地域包括支援センターの整備が進められることとなっており、これらを含め、近隣町会や地域内外の様々な団体等との連携を進め、ネットワークを広げることが、地域課題への柔軟な対応や担い手不足を補うことにもつながることから、町会は、その活動を通じて、人と人との絆を築いていくことが求められます。

次に、3 各主体の役割です。

住民、町会、町会連合会および市は、各々の役割のもと、協働で町会の活性化に取り組む必要があります。

まず、住民は、地域の一員として、自らが住みよい地域づくりの主体であることを認識し、身近な地域課題は自身で解決するという自覚のもとに、地域コミュニティの中核を担う町会の活動や運営に参加します。

そして、町会は、住民と力を合わせ、様々な団体等と連携しながらネットワークを拡大し、住みよい地域をつくるための活動を通じて人と人とのつながりを形成します。

町会連合会は、各町会の指導、育成、連絡のほか、行政とのパートナーシップを発揮し、各町会の共通課題への対応・解決や町会活動の活性化を図ります。

市は、全市的な公平・公正で平等な行政サービスに努めるのはもとより、町会や町会連合会に対し、必要な情報を提供するとともに、様々な主体とのネットワークの形成を促し、地域の特色を生かした活動に対し支援するほか、市職員の啓発等の充実を図り、町会活動に対する意識を高めます。

次に、4 町会活性化への方向性です。

町会の現状等を踏まえ、住民、町会、町会連合会および市が、共通認識を持って町会の活性化を進めるため、次の3つの「町会のめざす姿」を掲げます。

最初に、「町会活動を通じて、地域内の絆が育まれていること」これは、住民同士はもとより、地域の様々な主体と相互に顔が見え、助け合い、支え合う関係が築かれている姿です。

次に、「魅力ある地域づくりが進められていること」これは、地域の特性や資源、課題を地域全体で共有し、住民が愛着を持ち、住み続けたいと思える地域づくりに取り組んでいる姿です。

次に、「運営基盤が確立されていること」これは、組織運営や会計処理が適正に行われ、多くの住民の参加を得ながら、自律的かつ継続的な運営が行われている姿です。

次のページをお開きください。

これら「町会のめざす姿」の実現に向け、4つの「町会活性化への方向性」とこれに基づ

く「取組事項」を掲げ、下記のとおり体系図にまとめました。

町会活性化への取り組みにあたっては、町会は、地域性や規模、活動状況などが異なるため、各町会の実情を踏まえ取り組むことが大切であり、市と町会連合会は協働して、町会の活性化に向けて、各町会の活動や運営の課題について共に考え、情報やノウハウの提供、助言を行うほか、必要に応じて連携のためのつなぎ役となり、取組の好事例の共有化を図るなど、今まで以上に支援を行います。

以下の体系図の内容については、町会活性化検討会議において、委員の皆様からいただいたご意見などを参考に取りまとめたものです。

まず、「町会活性化への方向性」として、1つ目は「自発的な参加の意識づくり」です。

これは、住民一人ひとりが、町会の必要性を認識し、自ら町会に関わる意識を醸成することであり、これに基づく取組事項として、①「町会への理解促進」と②「主体的な参加を促すしかけづくり」があります。さらに、具体的な取組例を右に例示しています。

①の「町会への理解促進」のための取組例としては、町会は、ホームページや、FacebookなどのSNSを活用した地域活動情報を発信します。

また、市と町会連合会による取組例としては、全市民に向け、特に若い世代に対する理解促進のためのPR動画を使った情報発信の充実を図ります。

②の「主体的な参加を促すしかけづくり」の取組例については、学生や若者などを巻き込み、イベントの企画から実施までを任せ、主体的に町会に関わる機会を充実させます。

また、市と町会連合会は、町会に対し助言や好事例等の情報提供をするなどの支援を行います。

以下、取組例の○印は町会による具体的な取組例を、□は市と町会連合会による具体的な取組例を、印がないものは、市と町会連合会による支援などについて記載しています。

次に、「町会活性化への方向性」の2つ目として、「町会活動への参加機会の拡充」です。この項目については、少し補足説明いたします。

この項目は、昨年9月の第4回検討会議で「魅力ある町会づくり」としたところですが、その後、まとめを進めていく中で、「魅力ある」というキーワードについては、前のページでご説明した「町会のめざす姿」そのものを言い表す言葉であり、また、取組事項の①「町会活動への参加のきっかけづくり」や②、③、④のような様々な団体等との連携といった取組内容から、住民が町会への関心を高め、つながりを深めるための「町会活動への参加機会の拡充」と変更しましたので、よろしく願いいたします。

その「町会活動への参加機会の拡充」については、住民が、町会への関心を高め、つながりを深めることができるよう、町会活動への参加機会を拡充することであり、これに基づく取組事項として、「町会活動への参加のきっかけづくり」、「地域包括支援センターとの連携促進」、「コミュニティ・スクールとの連携促進」、「企業や団体等との連携」を掲げています。

①の「町会活動への参加のきっかけづくり」の具体的な取組例については、親子で参加できるイベントなどの開催や町会館を活用した居場所づくりをすることで、幅広い世代の住民が町会活動に参加するきっかけをつくります。

②の「地域包括支援センターとの連携促進」については、町会と地域包括支援センターが協働により、健康づくり教室などを開催することで、関係機関・団体等と地域の強いつながりをつくります。

③の「コミュニティ・スクールとの連携促進」については、町会の清掃活動と学校の親子レクリエーションを一体事業として実施することで、子どもやP T A等とのつながりを築きます。

④の「企業や団体等との連携」については、企業や団体等と共同により健康教室やI C T活用講座などを開催することで、地域への関心づくりや団体・人との交流を図ります。

次に、「町会活性化への方向性」の3つ目として、「負担感の軽減」です。

これに基づく取組事項としては、「加入促進方法の工夫」、「町会運営に参加してもらうためのしかけづくり」、「類似活動団体等との連携」、「活動内容や運営方法の見直し」を掲げています。

これらについての具体的な取組例として、①の「加入促進方法の工夫」については、町会活動や加入手続きの方法などが伝わりやすい加入案内チラシを作成し、町会加入の促進を図ります。

また、市と町会連合会による取組例として、転入者が多い時期に本庁舎に臨時窓口を開設し、町会加入の取り次ぎを行います。

②の「町会運営に参加してもらうためのしかけづくり」については、特定の役員に業務が集中しないよう、町会運営業務の細分化・分業化を進めるほか、短時間、特定の活動を受け入れる仕組みをつくり、多くの住民が参加しやすい町会運営を行います。

③の「類似活動団体等との連携」については、近隣町会や学校、P T A、児童館などとの合同により子ども向け事業を開催するほか、複数の町会が会計や監査などの事務を共同で外部委託します。

④の「活動内容や運営方法の見直し」については、現在の活動がニーズに合っているか検証し、見直すほか、専門知識を有する人材の活用や町会費の徴収方法の工夫を図ります。

最後に、「町会活性化への方向性」の4つ目として、「透明性・信頼性の確保」です。

これに基づく取組事項としては、「町会運営の見える化」、「I C T化の促進」、「運営事務の標準化」を掲げています。

これらについての具体的な取組例として、①の「町会運営の見える化」については、総会資料等運営状況を公開するなど、町会組織の意思決定のプロセスや会計処理の見える化に取り組みます。

また、市と町会連合会による取組例として、運営や会計に関する研修会を開催します。

②の「I C T化の促進」については、ホームページでの運営・活動状況の公開やS N Sによる地域情報の共有を行うことで、若い世代や会員以外にも届くよう情報を発信するほか、感染防止対策として、リモート会議などを導入します。

また、市と町会連合会による取組例として、協働で講習会を開催するなどI C T化への支援を行います。

③の「運営事務の標準化」については、役員マニュアルや町会活動スケジュールなどを作成することで、役員の引継ぎや年間行事の段取りをスムーズにし、円滑な町会運営を促進します。

また、市と町会連合会による取組例として、町会運営の標準マニュアルを作成し、運営事務の標準化を進めます。

資料の説明は、以上でございます。

(菊池座長)

ありがとうございました。

ただいま、事務局から「(仮称)町会活性化に向けた基本的な方向性(原案)」の骨子概要を用いて説明がありました。

この原案について、皆さまから何かご意見やご質問等がありますでしょうか？

(中山委員)

取組例の頭に□がついている項目や文頭の出だしが市と町連となっている項目は、この会が終わってから、具体的に取組んでいくということが決まっているという理解でよろしいでしょうか？

(米田課長)

市と町連と協働して取組んでいくことを予定しているものもありますし、これから町連と相談しながら進めていきたいと考えているものもございます。

(中山委員)

この会議の参加者が、町会に一生懸命な方ばかりなので、そうではない方に参加してもらうためにはどうすればよいか、ある程度の仕組みを作るとか何か強制力を働かせるとかそういったことがなければ、また何も変わらないのではないかと大変心配しておりますので、これをやるだとか、こういう動きをするとか、これを発信するだとか決めることが大事だと思います。

(菊池座長)

絵にかいた餅にならないよう、市やいろんな主体が取組んでいけるようよろしくお願いします。

(米田課長)

これは、あくまでも取組例ですが、参加してもらうための取組みを前向きに検討して進めていきたいと考えております。

(浜田委員)

町会の活性化を議題にしている会議は、日本でも数少ないのではないかと考えており、町会は歴史的に考えても任意団体であり、申し合わせ団体ということから加入しない人も出てくるのは仕方ない。

そんな中、この方向性の原案を見てありがたいと感じることが、市が町会と関係性を持って、強いつながりを持って、市が町会とともにまちの発展のために頑張ろうという形になっているので意味が大きいと感じた。

テレビの報道で、コロナの防疫に成功したニュージーランド、台湾は、初めから入国規制をかけていたが、中国は、発生源であれだけ大量に感染したのにも関わらず、とても早く防疫に成功した。その成功の大きな要因は、中国の町内会が大きな役割を果たしたようです。

函館市は、そのへんもよくわかっていて、まちの発展のためには市と町会の関係を綿密にしていくことで、まちの活性化につながると感じています。そして、こういった会議を持つこと自体が大きな意味を持つと思いました。

(神田委員)

コミュニティ・スクールとの連携促進ということで、町会の清掃活動と学校の親子レクの一体実施というところですが、クリーングリーン作戦に参加した際には、日曜日ということもあって、子供たちや先生方、保護者、全員が参加することは叶いませんでした。これは、清掃活動を通じて、地域に溶け込むためにみんなで活動するいい機会なので、全員で参加できるように授業を日曜日にあてるなど働きかけが出来ないかと考えています。

また、町会さんをお願いしたいこともあって、町会の年間事業計画が分かれば、連携が取れる活動を見つけられるかもしれないし、学校と町会との話し合いも早いのかなと感じております。

(常野委員)

まちの取り組みをみんなで考えようということで、学校関係者や町会、包括支援センター亀田の関係者でケア会議を開催しております、その時にもクリーングリーン作戦の話が出ております。普段、町会は平日の8時から清掃活動を始めていますが、クリーングリーン作戦の取り組みでコミュニティ・スクールと連携し、親御さんに入ってもらうなど、既存にある取り組みで連携を促進し、地域を活性化させることができるのではないかといった意見があります。

日曜日に行われる取組なので、意図的にかかわるために事業計画を立てるだとか見直すということが必要であり、住民の方に活動を知ってもらうための訴求力になると思います。

(竹内委員)

私は、都市建設部でやっている西部地区まちぐらし検討会議で委員をさせていただいてまして、西部地区の人口減の問題とかでまちが衰退しているということで、まちを活性化していきたいという主旨なんです、その中で西部地区の町会と市民部でも連携して催し物もし

ているというお話を聞きました。市で行われる様々な会議で、まちづくりに関するものがあれば、市民部が必ず連携して町会を巻き込んで進めていく必要があると感じています。

(菊池座長)

先ほど、浜田委員からもお話がありましたが、市と町会の連携というのは大事になってくると思います。ほかにご意見・ご質問のある方はいらっしゃいますか。

(形部委員)

先ほど、神田委員のお話でもありましたが、町会はクリーングリーン作戦は年間の行事に盛り込んでいる町会の方がほとんどだと思います。ただ、先生方に日曜休日に出勤していただきというのは、働き方改革的に難しいと思いました。ただ、親御さんが一緒に参加していただくと助かる部分は多いのではないのでしょうか。

(笹谷委員)

1年間話し合ってきて町会の目指す姿という内容が資料に反映され、説明があり納得はしていますが、この内容をどのように各町会へ落とし込むのか、目指す姿についてどのように進捗しているのか、P D C A (Plan (計画) - Do (実行) - Check (評価) - Action (改善)) を市の方で確認し合いながらということで、活性化というのは何を持って活性化したのか、もしくは後退したのか、現状維持なのか、結果を次年度につなげるのかということ事務局にお聞きしたいのですが。

(事務局 米田課長)

笹谷委員からありました、どのように町会へ落とし込んでいくのかという質問ですが、取り組み例にも記載しておりますが情報提供を行っていくことや、今回作成した町会活性化に向けた基本的な方向性自体を各町会に配布いたします。また、機会があれば町会連合会と協力して各町会にこの内容を説明するなどして町会に理解をしてもらいたいと考えています。

(事務局 横川次長)

笹谷委員から貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。函館市は、市域が広く、各町会も年齢構成が異なったり、それぞれ事情が異なっているのでそういった中できちんと数値目標をたててその結果を理解して検証して、再実行につなげるP D C Aサイクルのもとに計画的に進めるというのはなかなか難しいと考えております。

計画の中にも各主体の役割ということでそれぞれの町会が行う活性化の取り組みを市と町連がしっかりと支援していきます。その中で連携が必要であれば、こういったところと連携したいというお声かけがあれば、市の方で顔つなぎを行いながらともに連携し一緒に進めていきたいと考えております。

そういった中で、振り返って目指す姿というところにどこまで近づけるかというのが、住民の皆さんの行動や町会の皆さんの取り組み、市や町連がどこまで支援していけるのかが関



わってくるのではないかと考えております。予算の許す範囲で、町会の皆さんの取り組みに対して支援し一緒に取り組んでいくことで、目指す姿に近づいていけるように取り組んで参りたいと考えています。その際には皆様のご協力も必要だと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(笹谷委員)

ありがとうございます。資料の中で、町会加入率が52.7%となっておりますので、人口の減少や高齢化が問題となっていることは把握していますが、1名でも多くの住民の方に参加いただくことを目指していただきたいです。

(大矢委員)

取り組み例にもありますが、HPを活用した地域活動情報の発信というのはすでいくつかの町会が行っているのですが、地域によってはそういったことが苦手な町会もあるので、そのようなことについて市と町連はどこまで把握していて、どのように支援を行っていくのか気になります。各町会によって得意不得意があると思いますのでお聞きしたいです。

(事務局 米田課長)

大矢委員のご質問ですが、各町会でどのくらいHPなどに取り組んでいるのかははっきりとした数字的な部分は把握しておりませんが、取り組んでいる町会はまだ少ないと認識しています。

HPの立ち上げなどが、町会の役員の方だけで対応ができない場合、取り組み例にもありますように外部人材を活用するといった、例えば学生など得意な方にも協力してもらいながらHPやSNSを活用できるような取り組みができれば良いと思っており、提案していきたいと思っています。

(大矢委員)

ありがとうございます。HPは慣れている人は良いのですが、苦手な人はすごくハードルが高いので期限を設けるなどしていかないと難しいと思います。

すでにHPを立ち上げている町会は市のHPにリンクを貼るなどして、見せていかないとせっかく打ち出しても形にならないのではないかと思います。

(菊池座長)

ありがとうございます。事務局には、もう少し具体的に、先ほどの外部人材についても市の方でとりまとめしていただき、支援をしていただければ良いと思います。

(常野委員)

第1回の会議の資料を振り返って読んでおりましたが、この会議は町会のあり方と必要な施策を検討する会議ということなので、より具体的な取り組みが出ているかと思いますが、

取組例で2点ほど質問があります。もしお答えできるようでしたら事務局にお願いしたいと思います。

1つは負担感の軽減の箇所、本庁舎での臨時窓口を開設して加入案内をしていくというところがありますが、もし今の段階でイメージがつくようでしたらどのような形で行うのか教えてください。

もう1つは、今お話があったICT化への支援は技術面だけなのか。ICT化にはインシヤルコストもランニングコストもかかるでしょうから、そういった費用面について、次年度は難しいのですが、その翌年度などに予算どりされる見込みがあるのかどうか、現在の状況でいいのでお聞きできればと思います。

(菊池座長)

常野委員ありがとうございます。それでは、答えられる範囲は限られるかと思いますが事務局からお願いいたします。

(事務局 米田課長)

まず、臨時窓口の設置についてですが、これについては、市役所本庁舎1階の戸籍住民課があるフロアの一角に、転入転出など人の移動が多い時期に専用のブースを設け、手続きにいらしたお客様を誘導して町会への加入の案内をさせていただこうと考えています。

またICT化の支援に関してですが、おっしゃるとおり予算もあります。できる範囲でそういったものに使えるよう考えていきたいと思っています。

(事務局 横川次長)

私からもご説明をさせていただきたいと思います。

臨時窓口ですが、今年度はまずモデル的に町連と一緒に、窓口で転入者の皆さんにお声がけをしながら、加入の取り次ぎを行いたいと思っています。

今年度うまくいくようでしたら継続するか、また、あまりうまくいかないようでしたらやり方を変える等考えながら進めていきたいと思っています。

また、ICT化の技術面での費用やその他施設の整備というお話ですが、先ほどおっしゃられたようにやはり予算というものがあるので、なかなか、対応しますとは言いかねるのですが、現在、町会備品設備整備費補助金を用意してございますので、その補助金のなかで、もしご希望があれば申請していただいて、ICTの機器を整備するということができますので、ぜひ今ある補助金の活用ということを考えていただければと思います。以上です。

(菊池座長)

ありがとうございました。常野委員、今のご回答でよろしいでしょうか。

(常野委員)

ありがとうございます。先ほど笹谷委員からもありましたが質的評価ではなくて量的評価は加入率とかでも見ていけるかなというふうに思うので、ぜひそのあたりも期待したいと思います。ありがとうございました。

(菊池座長)

ありがとうございます。そうですね何かしらの評価は私も必要だと思います。

(神田委員)

先ほど少し説明不足で申し訳なかったのですが、親子レクリエーションの清掃活動を通して、うちはコミュニティ・スクールの活動にクリーングリーン作戦を組み込んで活動しているものですから、学校の活動に町会さんも参加してもらいながら、共同でやっていけたらいいかなということで年間の活動スケジュールにクリーングリーン作戦という形で織り込んでくださったら、いろいろな会議だったり、学校の先生も、少し厳しいかもしれませんが授業の一環であれば多くの子どもたちが出られるのではないかなということも、包括支援センター神山さんとお話をしたところです。

あとは、さきほどICTのお話も出ていたのですが、町会さんのいろいろな活動を皆さんに広く知ってもらうということで、私たちは本当に小さなコミュニティで活動をしているので、私どもの考えではまだできてはいないのですが、ソーシャルメディア、たとえばツイッターなどを使って学校の広報とともに地域の活動も載せられたらいいかなと考えていました。

ただそれも皆様と学校との折り合いがつかないとできないことですので、構想なのですが。その中で町会さんがしていることをツイッターに載せることで、自分たちの活動を見たいと思ってくださる住民の方も出てくるのかなと思います。

そうするともう少しICTのハードルが下がり、皆さん自分たちの活動を見ていただけるのではないかなと期待しながら、小さな活動ですが少しずつやっていきたいと思っています。

ですので、その辺の話し合いを町会さんならびに函館市の方とも相談しながら進めていけたらなと考えております。以上です。

(菊池座長)

ありがとうございます。やはりICT化というものに関して各町会ごと、各学校ごとで重さというのもあると思いますが、やはりできる体制があるところから進めていって、そのほか、フレキシブルに柔軟に対応していただければなと思っております。

それでは竹内委員が先ほど挙手させていただいたのでよろしく申し上げます。

(竹内委員)

竹内です。よろしく申し上げます。

2点ほどありまして、他の行政の取組例といたしますか、そこでの成功例みたいなものをこの前たまたまテレビでみたので皆さんにご紹介させていただきたいです。

福井県鯖江市というところ、めがねで有名なところですが、そちらも人口減少を食い止めるのに結構大変な思いをされてる中でいろんな住民の方たちと頑張っているという取り組みをたまたまテレビで見ました。

清掃活動なのですが、子ども達が積極的に清掃活動に参加してもらえるように、市民からいろんな意見を取り入れて行ったのが、ゴミ拾いを宝探しと称してどうせ捨てるペットボトルを、宝に見せてゴミをわざと捨てておいて、宝のペットボトルを拾ってきた子ども達は、景品といたしますか、なにかおもちゃなりお菓子なりがもらえて、ゴミ拾いを楽しくさせるということで親子を含めてごみ拾いの活動が増えたという成功事例を見たものですから、こういった他都市の成功事例を参考にしながら取り組みを進めていければいいのかなというのが1つ。

もう1つが、先ほど市役所で臨時窓口を開設するというお話ございましたけれども、例えば、市の方で住民票や印鑑証明をとる時に封筒が窓口にあると思うのですが、市が配布している窓口用の封筒等に町会の加入推進などの広告を載せるというのも今後の加入促進の一環としていかがかと思えます。これは私からの意見でございます。以上です。

(菊池座長)

ありがとうございます。まず、最初の成功事例というのは非常に大事だと思います。やはりロールモデルではないですけど、イメージというのは大事だと思いますので、いろいろ参考にできる情報提供も市の方からお願いしたいと思えます。

あとは、封筒とかに公的な広告というのですかね、それが可能なか確認したいのですが、事務局よろしくお願ひします。

(事務局 米田課長)

竹内委員から、他都市のアイデア紹介をしていただきましたが、非常に楽しいアイデアなのかなと思えます。他にも他都市で参考になる例というのは承知しておりますので、そういったものも参考にしながら、函館市でも生かしていきたいと思っております。

それから臨時窓口に絡めまして、転入時にお渡しする封筒ですが、その中には生活のしおりですとか函館市の手続き的なことを紹介する冊子の他に、町会加入ご案内用のチラシも同封しておりますので、今後も内容をリニューアルするなどしながら続けていきたいと思っております。

(菊池座長)

ありがとうございます。チラシがあるから他のPRは今のところは考えていないということになりますか。

(事務局 米田課長)

今のところはチラシを工夫するのみですが、先ほど申し上げたとおり内容を分かりやすくするですとか、あとは今年の12月に市のホームページに町会申し込みの取り次ぎをするた

めの専用フォーマットを用意しました。今までは、紙での取り次ぎのみでしたが、専用フォーマットにアクセスできるQRコードもそのチラシに載せています。

そういった工夫を続けながら、使いやすい、わかりやすい工夫をし、ご案内していきたいと考えています。

(菊池座長)

ありがとうございます。私からの質問ですが、市のホームページに取り次ぎのフォーマットを用意してQRコードもある、というお話ですが、今は2月なのでフォーマット作成から日数は経っていませんが、実際申し込まれた方というのはいらっしゃるのですか。

(事務局 米田課長)

まだ数は多くありませんが、実際に申し込みしていただいた方もいらっしゃいます。それは町連さんに取り次ぎをさせていただいております。

(菊池座長)

先ほどQRコードをチラシに載せているというお話がありましたが、今後、3月4月と人の流入が増えてくる時期に期待ができるかなと思います。

竹内委員、今の事務局の回答でいかがでしょうか。封筒の方はなかなか難しいということでしたが。

(竹内委員)

理解できました。ありがとうございました。

(菊池座長)

どうでしょうか、ご意見ご質問等いろいろと他にございますか。酒井委員から手が上がっていましたので、酒井委員よろしく願いいたします。

(酒井委員)

今、話をお伺いしていて、やっぱり町会の活動がいかに私たちにとって魅力があり、そこからどうやって会員を増やしていくかっていうのをすごく皆さんのお話から考えさせられました。

ただ今回の要旨にありますように、取り組みにあたってということで町会の地域性や規模、活動状況が異なるなかで、多くの町会さんたちがいろんな活動を頑張っていると思います。

ただ、やっぱりその中で情報が町会に入ってきていないという現状もあり、頑張っているが、成功例が伝わってこない。

例えば、こういうことをやったから会員たちが増えてきているだとか、外部人材というお話も出てましたが、このような外部人材をいれたらこういうことができたから、皆さんもやってみたらどうですか、など、そういう面で具体的な事を各町会ごとに知らせてくだされば、

各町会の紹介事例を自分たちができる、できないを話し合うことができる。これが1点。

もう1点は、私達町会はどうしても自分たち個々の町会が頑張っているという部分がありますが、枠を超えて町会同士が助け合うということもとても大事なのではないかと思います。自分たちは一生懸命だけど隣の町会をみたら高齢化が進んでいたり、自分たちにはない人材がほかの町会にあったりするので、個別の町会という枠を超えて町会の中で協力し合うという体制を作っていくとそこから人材などいろいろな面で役に立つのではないかと思います。そういう情報を市や町連が私たちに提供していただければと思います。

(菊池座長)

今の内容について、事務局より何かございますか。

(事務局 米田課長)

酒井委員から、町会の枠を超えてというお話がありましたが、取組例でもあげておりますが、町会同士の連携はとても重要だと考えておりますので、コーディネート的なことも町連と協力しながら行っていきたいと考えています。

また、他都市の成功例などもみなさんへお知らせしていきたいと考えております。

(事務局 横川次長)

好事例ということに関して、例えばお隣の町会や方面の違う町会が良い取組をしているといった情報が入ってこないということについては、市内の他の町会の良い取組は市としても全市の町会に広めて行きたいと考えておりますので、好事例集のようなものも今後考えていきたいと思っております。

(形部委員)

私も同じ意見で、ほかの町会がどのような取組を行っているのかわからない状態で町会活動に取り組んでいますが、右も左もわからないまま模索している時間がとても長かったです。酒井委員がおっしゃるとおり、事例集があるとそれを参考にしながら自分の町会にあうようにしたりアレンジを加えながら活動していくことが大事だと思ったので、成功例を教えてくださいたいと思います。

先日、広報誌市政はこだてを見ていて思ったのですが、先ほど市のHPに加入のフォーマットを作られたと説明がありましたが、そういったことを広報誌の表紙に載せたりできればわかりやすいと思いました。また、広報誌の記事で市営住宅の入居者募集という記事がありますが、そちらのほうにも町会の加入募集の案内を載せられれば良いと思いました。

(菊池座長)

ありがとうございます。そういった広報誌の中でも活性化の支援を行っていただければよいですね。広報誌の記事の配置などは決まっているものなのではないでしょうか。

(事務局 横川次長)

表紙に載せるというのは難しいのですが、まだ少ないですが年1回は町会に加入しようという記事を掲載しています。市政情報も数多いので、何度も枠をとることは難しいのですが、この活性化の方向性も含めて市民のみなさまに取組を紹介できるように努力していきたいと思います。

(酒井委員)

先日、函館新聞にもHPの町会加入ページ解説の記事が載っていました。ただ、この記事だけだと加入したいと思える内容ではありませんでした。

このようにいろいろなところに情報を流すということは大事だと思いましたが、もし欲を言わせてもらおうとやはり市民にもう少し町会加入がいいものであるということを、今私たちはそのために会議をしているのですが、もう少し肉付けをしてもらい、町会加入への興味が湧くようないい情報を流したり、記事なりに書いていただければ大変助かると思いました。

(菊池座長)

ありがとうございます。そうですね、市民にとっても町会の方にとっても利益、もしくは今後入りたいな、まだ入っていない方に対して何かメリットがあるような内容、またわかりやすさとかアクセシビリティのようなものも考えていく必要があるのではないかと。

たしかに住民票を4月に取りに行くところとチラシをもらうのですが、たくさん資料をもらうため、ひとつになってしまうところもあったりするので、今年度、臨時窓口がモデル的に開設されるということもありますので、それも含めてぜひ市としてもせつかく検討会議を行っていましたから、PRの仕方というのも工夫していただければと思います。

よろしく願いいたします。

(櫻坂委員)

櫻坂です。今のPRの仕方だとか、函館新聞の広報の話を伺って思ったのですが、いろいろな媒体がいろいろな広報の仕方をしてるとやはり戸惑ってしまう、混乱してしまうので、情報の一元化というのが大切かなと思いました。

さきほど事務局が紹介してくださった町会自治会へ加入しようという函館市のウェブサイトを見ながらお話しを聞いていたんですが、ここに申込フォームなどもあるのですが、意見の一つとして入れたらどうかなと思うのが、この活性化検討会議という存在。

こういった会議を函館市ではしていて、町会の活性化を目指しているんですという姿勢の情報がここにあったらいいかなと思いました。そうすると転入して初めてこのページを見た人は、函館市の町会って面白そうだなと興味をもってもらえるのではないかなと思いました。

あと、一つ、各町会の活動内容がわからないとか、ICT化にもつながりますが、やっぱり各町会でホームページを立ち上げて、SNSでもいいのですが、それを維持管理していくのってかなり大変だと思います。

定期的に情報をアップロードするというのは、担当の人を決めて仕事としてやっていかな  
い限りなかなか難しいと思います。

これは難しいと思いますが、たとえば函館市のページの中に町会の人書き込めるような、  
「うちの町会は日曜日にクリーングリーン作戦を行いました」とか発信できる場のようなもの  
があり、そこに自由に町会さんが書き込めるような場所があれば、全体像も見えるしいい  
のかなと思いました。以上です。

(菊池座長)

櫻坂委員、ご提案ありがとうございます。

今のご提案に対して、何か事務局から今できる回答などはありますか。

(事務局 米田課長)

活性化検討会議を開催し、町会活性化を目指しているとホームページに載せて紹介する  
という市の姿勢を示すことは大事なかなと思いますので、参考にさせていただきたいと思  
います。

また、市のホームページに各町会の活動を個別にアップするというのは技術的に、また市  
のホームページなので制約があるかどうかについても確認してみないとわかりません。た  
だ、リンクを貼ることができるのであれば、各町会の活動も紹介しやすいと思います。そ  
の辺は研究したいかなと思います。

(菊池座長)

ありがとうございます。ぜひ前向きに検討をお願いしたいと思います。

(永澤委員)

先ほど好事例集などの話が出ていたと思いますが、その部分については特に函館新聞さん  
の方でいろいろ紹介してくださっている部分もありますし、また社会福祉協議会さんの方  
の広報紙の中にも掲載されている部分もあります。

私、以前に社会福祉協議会の方から地域福祉コーディネーターという役職をいただきまし  
て活動を4年ほど行いましたが、いろんな町会に出向いて、活動の仕方を伝達させていた  
いたということもございます。

そういう観点から旧4町村の方に出向きましても、講習会、いろんな形でさせていただ  
いたという部分もあるのですけれども、やはりちょっと言い方が悪いかもしれないのですけ  
れども、やろうと思う気持ちがあったらどういう形でも自分で情報を探すという気持ちに  
なるのではないのかなと思います。

また、ICT化の関係ですけれども、先ほどから若い方については頭の回転も良くてでき  
ると思います。

今日のリモートについても、私のパソコンにカメラついてますか、と言われた時につい  
ていないと回答しましたが、実際はついていました。

やはりそういうものに興味がないというか、苦手意識を持っているとなかなか難しい部分



もあり、私の町会にはパソコンを設置していないので、副会長や私の家のパソコンを使うという事情もあります。

先ほど、財政的な部分については市民課の方で手を上げていただくと援助できますよという話がありましたが、たくさん手をあげても順番があり、まわってきません。ですから、もしそういうもので考えがあるのであれば、各町会にこういうものを使うのにうんぬんっていう部分の案内はあるのですが、そういう調査はしているのかな。

また以前、町会連合会としても提案したことがあります。一発大きい金額ではなくて、細分化した形でそういう予算的なものをしていただけないものなのかっていう提案をしたことがあるのですけれども、一向にその話はもう、3年ぐらい経つんですけど進んでこない。

やはりそこら辺のところをもう一度しっかりと考えを改めて何がいいものなのか、若い方の考えと、私達町会の会長というのとはとにかく高齢化が進んでいます。とにかく年代がみんな70代80代が多いところで、他では90歳の方もいらっしゃるものですから、そういう方でもスムーズに取り組みができるような形も必要なんじゃないのかなという気持ちもあります。

また、好事例集を作りますというお話もありましたが、そう簡単には正直なところできないだろうと思っています。各町会に調査をしながら作っていかなければならないもので、例えばうちの町会のように、町会としての活動をするには制限があるので、以前お話ししましたように会を立ち上げて活動して、会場をお借りしてやっている部分もあるので、そこらへんのところも検討していただければと思います。以上です。

(菊池座長)

永澤委員ありがとうございました。

どうでしょうか、事務局のほうから、先ほどパソコン等の機器が町会にあるかないか、インターネット回線が通っているかどうかなど、いわゆるICT化をある程度進めることに対して、その前段階の現状に対しての調査などが具体的に決まっていれば教えてください。

もしくは、すでに調査は実施済みなのかもしれませんが、そういうことも含めてご回答いただければと思います。

(事務局 米田課長)

ICT化に関してですが、先ほど申し上げました通り、パソコンやタブレットなど備品類については補助制度があります。

その中で、翌年度の予算のため10月頃に計画を出していただきますので、その中で必要なものが把握できるかなと思います。

また、インターネット回線ですとか、各町会がどういう状況にあるかの調査はしていないので把握できていませんが、各町会の状況は町連とも相談しながら必要な確認をしていただければと思います。

(菊池座長)

ありがとうございます。そういうハード的、外部環境的な整備ももちろん大事だと思いますが、これから実際に進める中で、どうやってやったらいいか、というのは先ほども外部人材でという話もありましたが、どこに頼んでいいかわからないということもあると思いますので、そういう橋渡しなんかも市のほうで一緒に連携していかなければと思います。

永澤委員、この回答でよろしいでしょうか。

(永澤委員)

はい。

(菊池座長)

では、今、若林委員が挙手されているので、ぜひよろしく願いいたします。

(若林委員)

町会活性化への方向性が4つ示されているなかで、1番上の自発的な参加の意識づくりというところは、やはり数字として見えるわけでもなく、目に見えるわけでもなく、そういった意味でなかなか難しいところなのかなと感じています。

若者の加入率が低いというワードが今まで何回か出てきていると思うのですが、先日わらじ荘に住んでいる学生と町会について話す機会があったり、それとは別に、今私があるNPO団体に所属していて、後輩の就職活動を支援するという活動なのですが、そういうところで学生と話す機会が多くあります。

その中で一定数まちづくりに関わりたいとか、地域をもっと活気づけていきたいと話す学生も多くて、そういう学生がいても、やはり町会っていうのがそもそもすごく遠い存在で、地域と関わるにしてもその入り口がわからないという声がすごく多いなと感じています。

取組例の中にもイベントの企画実施と書いてあって、それもすごくいいなと思っているのですが、単発のものではなく継続的に学生と地域が関わっていけるような、例えば学校を通して授業の一環、プロジェクトの一環で関わることができたり、あとはボランティアやアルバイトなど、何が実現可能性が高いのかはわからないのですが、少しでも町会に興味のある学生に、広く目にとまるような枠組みがあると、もっと若者が関わっていきやすい活動になるのかなと感じています、以上です。

(菊池座長)

ありがとうございます。やはり今後の担い手作りというのを考えると、大学や高専の学生や学校、また、もちろん小学校や中学校、あとはコミュニティ・スクールなど、地域にある学校との連携をなかなか町会さんからというのは難しいのかと思いますので、市の方から橋渡ししていただき、単発では終わらないで継続的にどのように関わっていけるかというのをせっかく函館には小学校から大学まで学校がたくさんありますので。

私の話で申し訳ないのですが、私の子供は学童に通っていて、教育大とプロジェクトをしていて、授業の一環で一緒に昔あそびをするなどといった活動に組み込んでいただいて、最

最終的には授業で単位をもらえる、子供たちはお兄さんお姉さんと遊べるというメリットがあるわけですが、このように、両方にとって得をするという橋渡しをしていただけたらと思います。

いろいろな取り組み例にも、実際に「市と町連が橋渡し」という文言が至る所にあるのですが、それを具体的にどういう橋渡しができるのかというところをちょっと市として、町会連合会さんとして考えていただければなと思います。そういうことについては、具体的に策として考えられていることがあれば、教えていただけますか。

もちろん構想中なものもあるのかもしれませんが、その橋渡しの例みたいなご検討中のものがあれば事務局から教えていただきたいと思います。

(事務局 小林主査)

事務局の小林です。よろしくお願いします。

学校と町会との連携というお話でしたが、今函館市で考えられるのは、やはり町会が学校とどのように繋がっていけるかということも、お互い双方向であわせて繋げていく必要があるかなと思います。

今、若林さんから伺った若者が町会に関わりたいという意思がある学生さんがいらっしゃるという話がありますので、今後については、ぜひ町会も逆に若者と繋がりたいという気持ちをこちらでくみ取って繋げていきたいと考えます。

(菊池座長)

具体的に進めていっていただけるとありがたいなと思います。

どうでしょうか若林さん、今の回答でいかがでしょうか。

(若林委員)

私もさきほど少し説明が足りてなかったのですが、菊池座長が言ってくださったことに近くて、連携イメージ図だと市からの助言という記載があるのですが、やはり町会になかなか情報が入って行きにくいということをお聞きして、ある程度取り組みの事例によっては市のほうが主導になって進めていくことも必要になっていくのかなと思っているので、学校との関わりの仲介だとか、そういうあたりもぜひお願いできればなと感じました。ありがとうございました。

(永澤委員)

先ほどの橋渡しの関係ですが、市と町連だけではなく、函館市にはボランティア協会もありますし、あと社協さんの方の地域福祉の関係の部署もごございます。そういうところからもいろいろな橋渡しをしていただけることにもなってます。

ですから、先ほど言いましたように会を立ち上げたときに、学生さんたちをお願いしたいということで社協さんの方をお願いをして教育大の学生さんを20人くらい協力していただくという形をとりました。

また放課後児童クラブの関係は、学校サイドの方から直接私の町会に来てお手伝いをしているという実情もございます。

ですから、町会に入っていきたいがわからないということにはならないのかな、と思います。もしお手伝いしたいのであれば、いろんなところに声をかけて、先ほど言いましたようにボランティア協会も社協さんもありますし、そういう形でうちの町会はいろんな繋がりを持って活動をさせていただいてました。

(菊池座長)

ありがとうございます。

そういう町会での好事例を市の方で情報提供に盛り込んでいただければと思います。

皆様からのご意見ご質問等はなかなか尽きることはないと思いますが、大変恐縮なのですがこれで一度締めたいと思います。

もしなにかご意見ご質問等ございましたら、事務局や私にご連絡していただければと思います。

実際にそういう皆様のご意見を伺って町会活性化検討会議、第1回から今回で6回目となりますが、いろいろ試行錯誤しながら進めてきましたが、コロナ渦で世界全体も変わっていますし、函館市も様々なことに対応しなければならない状況になっています。

こういう大変な時こそ、やはり、町会の役割を改めて考える必要があるのではないかと思います。

第1回から第5回にかけて、いろいろなワークショップの実施や発言した内容をシートにまとめるなど楽しい作業でしたが、いろいろと発言をさせていただいた内容を、事務局でどのようにまとめていただいて本当に大変な作業だったと思います。本当にお疲れさまでした。

多くの委員会に参加させていただいていますが、こういうふうに全員がご発言をする会議というのは本当に少ないです。

やはり全員が他人事でなく自分事でお話していただけたというのが、皆様が町会活性化に対して関心があることの表れなのかなと思います。

この町会活性化に向けた基本的な方向性の原案ではございますが、今のご意見ご質問等を踏まえ、また改めて報告されることになると思いますので、その際はどうぞよろしくお願いいたします。

それでは事務局へ進行をお返ししたいと思います。

(事務局 米田課長)

委員の皆様から非常に中身の濃い貴重なご意見を多数いただきました。ありがとうございました。このあと、皆様からいただいたご意見は事務局の方で整理させていただきたいと思っています。

..... 3 その他 .....

(菊池座長)

それでは次第4その他について、委員の皆様からなにかございますでしょうか。  
ないようなので、事務局からお願いいたします。

(事務局 米田課長)

それでは連絡事項をお知らせいたします。

活性化に向けた基本的な方向性の策定までのおおまかなスケジュールですが、この後、原案について市の内部合意を得て、今月中旬にはパブリックコメントを実施する予定です。

このパブリックコメントの募集案内につきましては、すでに発行されている市政はこだての2月号に掲載しております。意見を提出するための様式は本庁舎ほか各支所に設置するほか、市のホームページにも掲載する予定です。募集期間は1か月となっております。

市民の皆様からいただいた意見を考慮しながら、今年度中に方向性について成案化したいと考えております。

その後、成案化したものを委員の皆様はじめ町会関係者の皆様に配布する予定となっておりますのでよろしくお願いいたします。

事務局からは、以上です。

..... 4 閉 会 .....

(菊池座長)

ただ今の連絡事項について何かご質問等はございますか。

それでは、今回で検討会議をすべて終了とさせていただきたいと思っております。

委員の皆さまにおかれましては、これまで、お忙しいなか、お集まりいただき、誠にありがとうございます。皆さまのご協力のもと円滑に会議が進行し、数多くのご意見を聞くことができ、たいへん実りある議論が行われたと考えております。

これで最後ということで、これまでの会議を振り返って、委員の皆さまから、一言ずつご感想などをいただきたいと思っておりますがよろしいでしょうか。

《 各委員からの感想 》

(菊池座長)

それでは、以上となりますので、事務局に進行をお返しします。

(事務局 小林主査)

皆さま、ありがとうございました。それでは、最後に、市民部次長の横川から一言お礼を申し上げます。

(事務局 横川次長)

みなさま改めまして、貴重なご意見をありがとうございました。

委員のみなさまにおかれましては、令和元年の11月から本会議に携わっていただいた方も多く、改めて感謝申し上げます。

また、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、会議の開催が延期するなどご不便をおかけしましたこと、また本日は我々も初めて行う試みであるリモート会議ということで不手際もあったことと思いますがご協力いただきありがとうございます。

この町会活性化に取り組むにあたり、最初は町会の加入率の低下ということが課題ではありましたが、委員のみなさまからの意見の中で加入率や数の問題ではないという意見や、町会のみなさまは様々な活動を行っているということを改めてお伺いし、本当に町会は地域にとってなくてはならない欠かすことのできない存在ということを委員のみなさまも含め認識できたものと考えております。

社会情勢や市民の価値観というものは大きく変化しておりますけれども、地縁組織としての町会というものは隣の方の顔が見える、また近所の方との絆をつくるという我々行政にはできない大変重要な役割を担っていただいていると考えております。

こうした町会が高齢化や担い手不足により活力が低下しているという実情がありますが、今後持続可能で活動していけるよう町会連合会と協力しながら支援していきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

このたびの町会の目指す姿として『絆・魅力・運営』という3つのキーワードを掲げて取り組んでいくこととしておりますが、ぜひみなさまも積極的に町会に関わっていただき町会活性化をみなさまのお力をあわせて取り組んでいきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

先日開催した町会活性化セミナーの講師の方から、地域コミュニティを支える町会活動の価値というお話がありました。町会の価値というものは地域の価値を高めるものなのだというお言葉をいただき、本当にそのとおりだと思います。

今後もみなさまのお力をお借りしながら取り組んでいきたいと思っておりますので、ご理解とご協力、またご支援賜りますようよろしくお願いいたします。

(事務局 小林主査)

それでは、これをもちまして、第6回函館市町会活性化検討会議、また本検討会議を終了とさせていただきます。これまでのご参加、ありがとうございました。